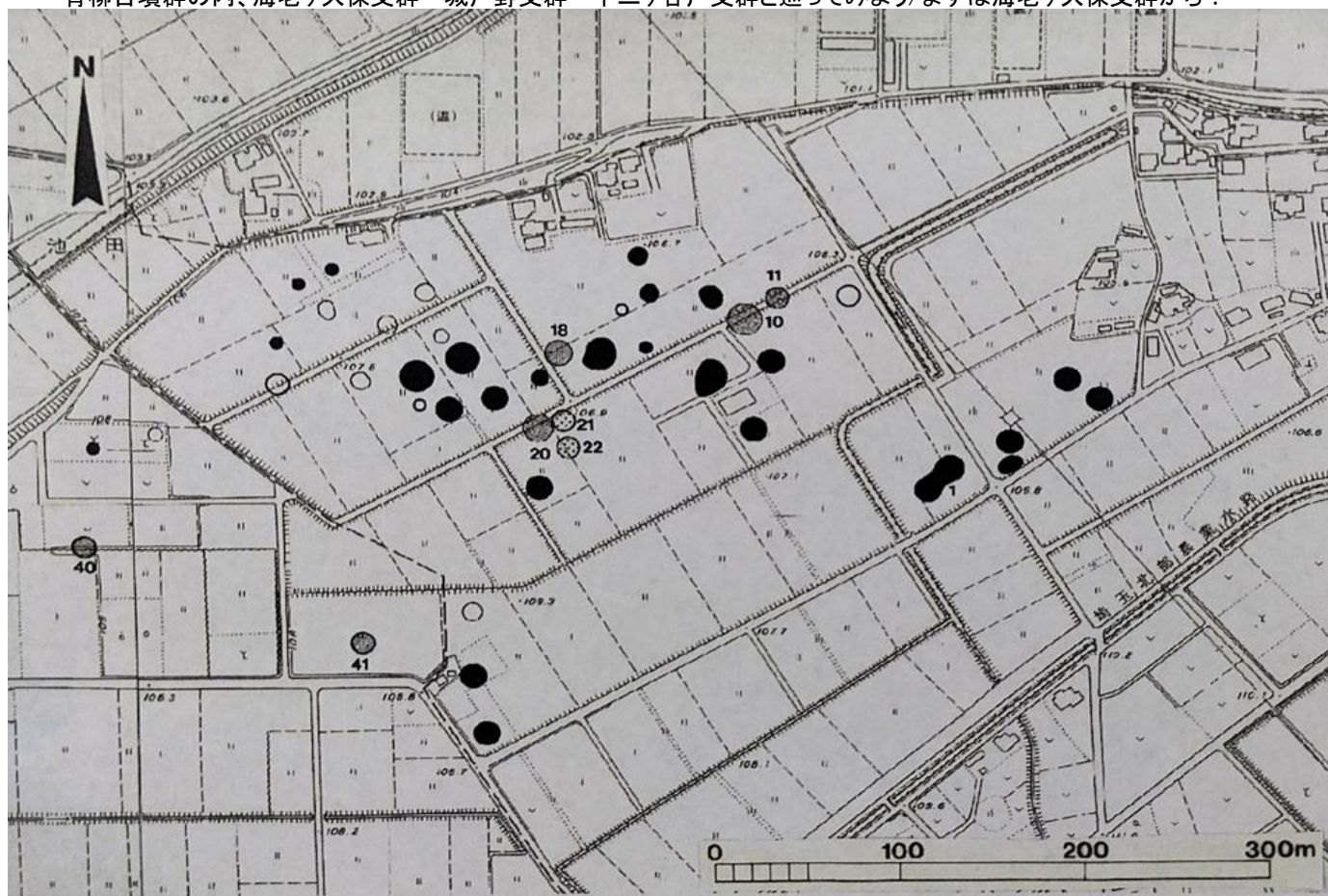


青柳古墳群 海老ヶ久保支群・城戸野支群・十二ヶ谷戸支群(児玉郡神川町)

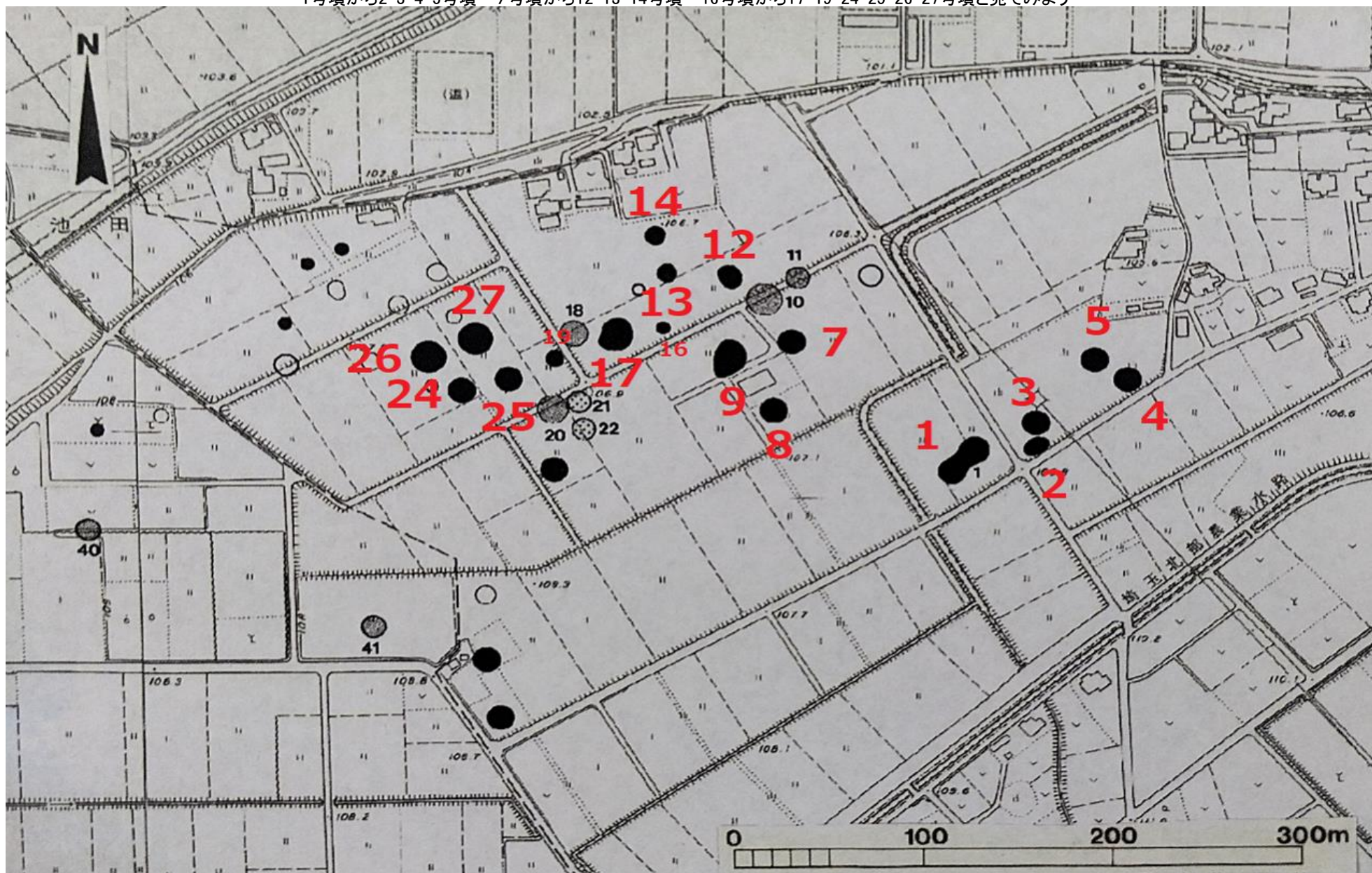
青柳古墳群の内、海老ヶ久保支群～城戸野支群～十二ヶ谷戸支群と巡ってみよう/まずは海老ヶ久保支群から！



●は墳丘が残っている古墳。○は古墳跡。網目は調査古墳。

第2図 海老ヶ久保の古墳分布図

1号墳から2・3・4・5号墳～7号墳から12・13・14号墳～16号墳から17・19・24・25・26・27号墳と見てみよう



前方の左手が前方後円墳(左手が前方部で右手は後円部か?)の1号墳/右手は円墳の2号墳



1号墳(神川町遺跡地図の190)/どちらが前方部でどちらが後円部かはっきり分らない

 [video](#)



そこで、右手を見たところ/手前が2号墳、奥が3号墳/1号墳以外は全て円墳のようだ



左手から見た2号墳(188)

 [video](#)



右手から見た2号墳/右奥は1号墳



3号墳(189)



右手から見た3号墳

 [video](#)



前方の左手前が5号墳(187)/右奥は4号墳(186)



アップで見たところ/正面が5号墳、右奥は4号墳



1号墳/唯一の前方後円墳

 [video](#)



右手から見たところ/正面が後円部と思われるが・・・



左手前から見たところ/右奥に見えるのは3号墳(左手)と2号墳(右手)

 video



左手から見たところ/前方部と思われるが・・・/右奥は2号墳



前方部の墳頂に登って後円部方向を見たところ



括れ部と後円部を見たところ/前方が3号墳、その右手は2号墳

 [video](#)



後円部/葺石の名残と思われる小石が散乱している

[video](#)



後円部の墳頂で前方部方向を見たところ

 [video](#)



葦石

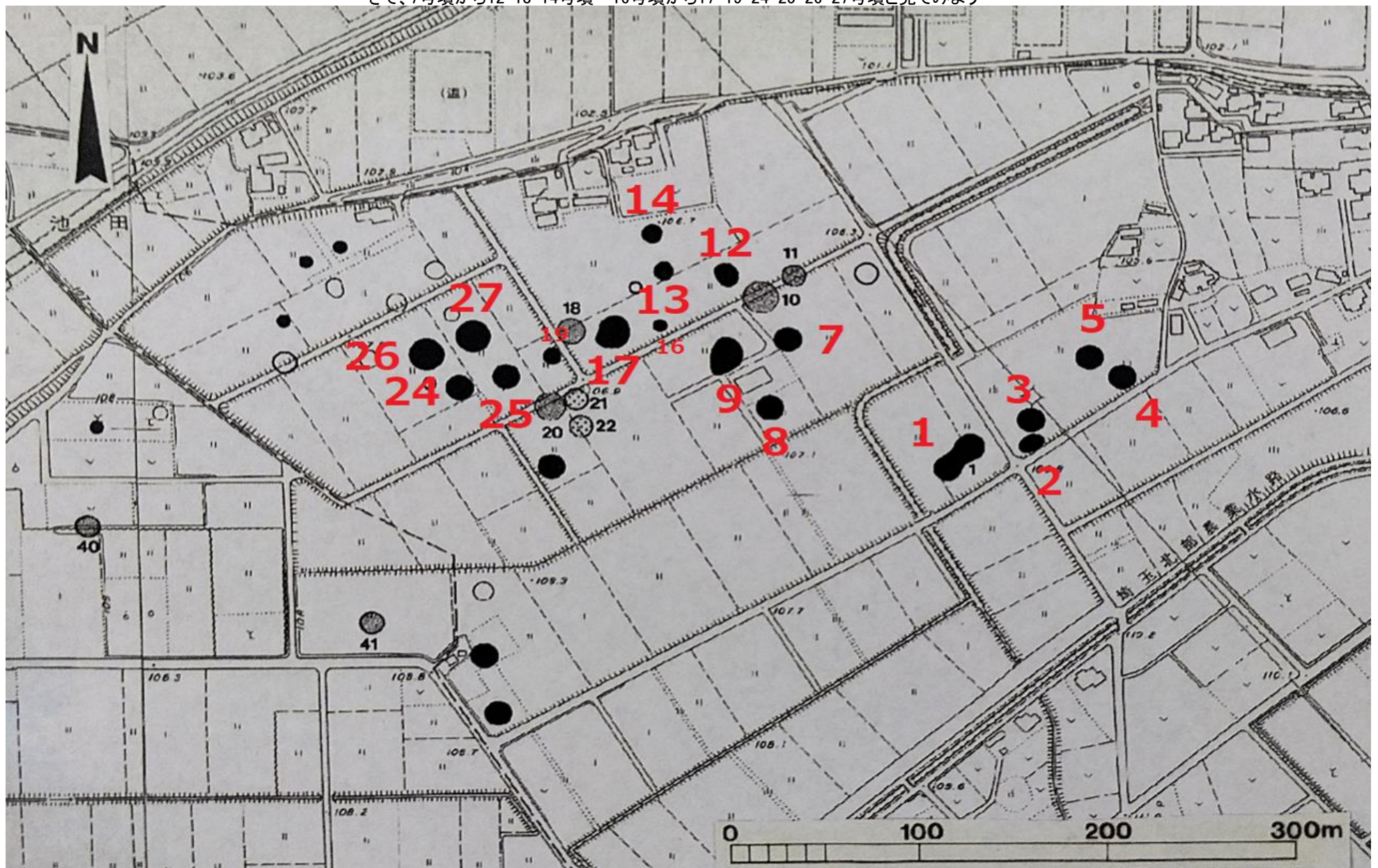


反対側から見たところ/左手が後円部、右手は前方部

 [video](#)



さて、7号墳から12・13・14号墳～16号墳から17・19・24・25・26・27号墳と見てみよう



前方が7号墳(202)



右手から見たところ

 [video](#)



近づいて右手から見たところ



更に近づいて右手から見たところ



後ろから見たところ

 video



12号墳(205)/左奥は13号墳



左手から見たところ



13号墳(271)

 video



正面前方は14号墳(208)/左手は13号墳



16号墳(210)



右手から見たところ



左手から見たところ

 video



17号墳(211)

 video



左手から見たところ/右奥は16号墳



左後ろから見たところ



19号墳(212)



右後ろから見たところ

 [video](#)



左手から見たところ

 video



25号墳(216)



左手から見たところ

 video



左奥は24号墳/右手前は25号墳

 [video](#)



24号墳(215)

 video



右手から見たところ



25号墳



26号墳(217)

 video



右手から見たところ



右後ろから見たところ/左奥は24号墳

 [video](#)



27号墳(219)



墳丘に登ってみよう！／葺石の名残が見られる

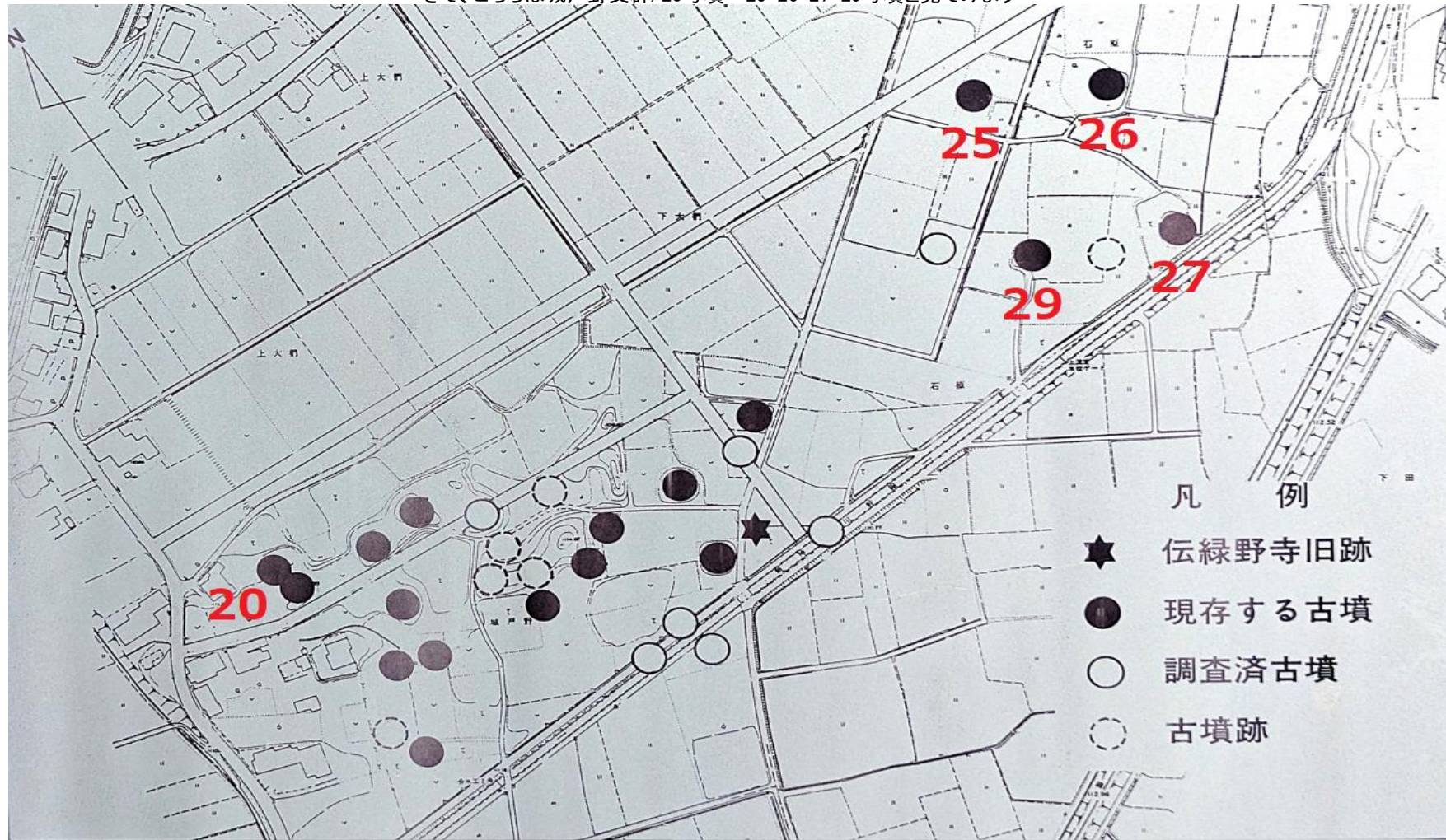


ここが墳頂

 video



さて、こちらは城戸野支群/20号墳～25・26・27・29号墳と見てみよう



伝緑野寺旧跡と城戸野古墳群

縮尺1:2000

20号墳(252+253)/前方後円墳とされる/正面が後円部、左奥が前方部と思われる



括れ部の辺りが大きく削られている/左手が後円部、右手は前方部

 [video](#)



右手の前方部を見たところ



同じく、左手の後円部を見たところ



後円部を後ろから見たところ



それでは後円部の墳丘に登ってみよう



後円部の墳頂で前方部方向を見たところ

 video



ここは城戸野廃寺の跡/標柱と説明板が立っている

 [video](#)



伝緑野寺旧跡と城戸野古墳群

伝緑野寺旧跡(昭和三十六年九月一日 県指定旧跡)は、小字名から「城戸野廃寺」ともいわれている。この地からは複弁八葉蓮華文軒丸瓦、単弁八葉蓮華文軒丸瓦などの瓦が採取されている。また礎石の存在が知られていたが現在不明である。

伝緑野寺というのは、『続日本後紀』承和元年(八三四)五月平安時代初期の条で、道忠禪師の創建とされる上野国(現在の群馬県)緑野寺の記述の中に浄土野の地名がみえることから、読仮名の同じ小字のここ神川町大字新宿宇城戸野の地が緑野寺に比定されたようである。緑野寺は、神流川の流路の変遷により対岸の群馬県鬼石町浄法寺に移ったとみられている。

伝緑野寺旧跡の周囲に点在する小丘は、今から一三〇〇年程前に造られた古墳で、これらは「城戸野古墳群」と呼ばれる。古墳群は、町内で最も南に所在し、その総数は三十基余り確認されている。



昭和四十三年の北部用水工事及び平成二年からの土地改良事業で七基の古墳が調査された。古墳の形態は全て径十五〜二十メートルの円墳で、埋葬主体部は横穴式石室を採用する。副葬品には、耳環・管玉・切小玉等の装身具、直刀・鉄鏃等の武器、須恵器が出土している。墳丘には葺石が巡らされ、円筒埴輪や人物埴輪、水鳥埴輪等を樹立している。

神川町教育委員会

平成三年三月

古墳は全て円墳で、今から1300年程前に造られ、主体部は横穴式石室と記されている

正面前方は29号墳/その背後の木々の中に26号墳、右手に27号墳、左手に25号墳が見える/いずれも円墳



29号墳(236or239)



右後ろから見たところ



27号墳(233)



左後ろから見たところ

 [video](#)



この木々の中に26号墳(234)がある

 [video](#)



右手から見たところ

 [video](#)



左手から墳丘に近づいて、その墳丘を見たところ

 video



25号墳(235)



左隅から見たところ

 video



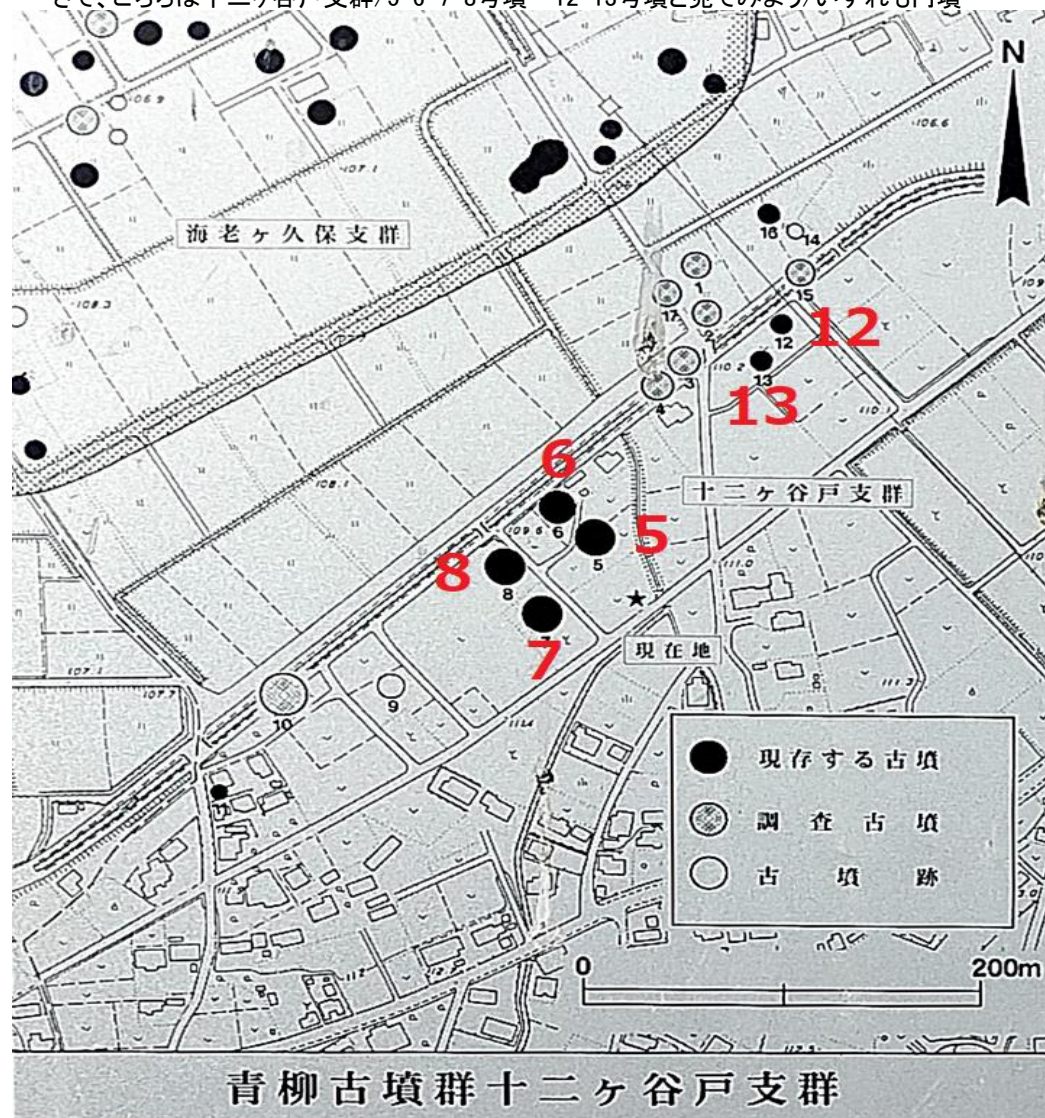
右隅から見たところ



反対側から見たところ



さて、こちらは十二ヶ谷戸支群/5・6・7・8号墳～12・13号墳と見てみよう/いずれも円墳



正面前方が7号墳/右手に5号墳、左手に8号墳が見える



説明板が立っている/右手に5号墳、左手に7号墳が見える

 [video](#)



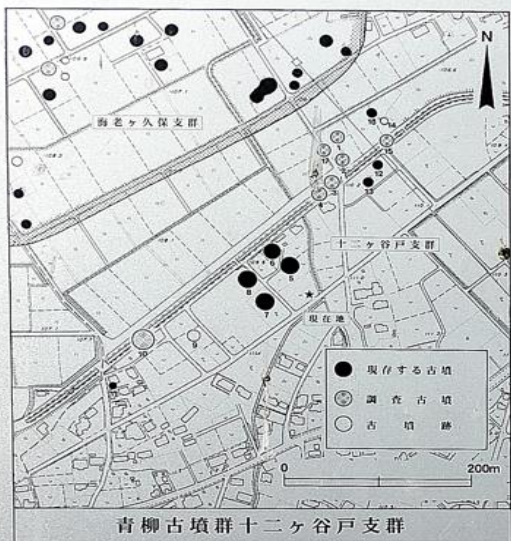
青柳古墳群十二ヶ谷戸支群

十二ヶ谷戸支群では十七基の古墳が確認されている。これらの古墳は、今から一四五〇年程前の六世紀中頃から後半を中心として、次々に造られたものであり、結果として小規模な古墳が多数密集する群集墳を形成している。

昭和四十三年の農道建設や翌四十四年の北部用水工事および平成三年の土地改良事業に伴って計七基の古墳が調査された。

調査の結果、古墳は径十二～十七メートルの円墳で、埋葬施設は、すべて横穴式石室である。石室には、平面形が長方形の袖無型が五基、I字形のものが一基あり、古い形態の横穴式石室であることから、青柳古墳群でも早くから古墳が造られた支群と考えられる。副葬品には、鉄鏃などの武器、切子玉・耳環などの装身具がある。墳丘には、河原石を積み上げた葺石がめぐり、円筒埴輪や人物・馬・大刀形などの形象埴輪が並べられていた。八号墳から出土した盾を持つ人物や一五号墳の鶏形埴輪は町内では数が少ないものである。

なお、一七号墳の墳丘下からは約四五〇〇年前の縄文時代中期の竪穴住居跡などが発見され、土器や石器が出土した。



平成十一年三月

神川町教育委員会

7号墳(193)



左手から見たところ

 video



後ろから見たところ



8号墳(194)



左手から見たところ

 video



後ろから見たところ



5号墳(191)



左手から見たところ

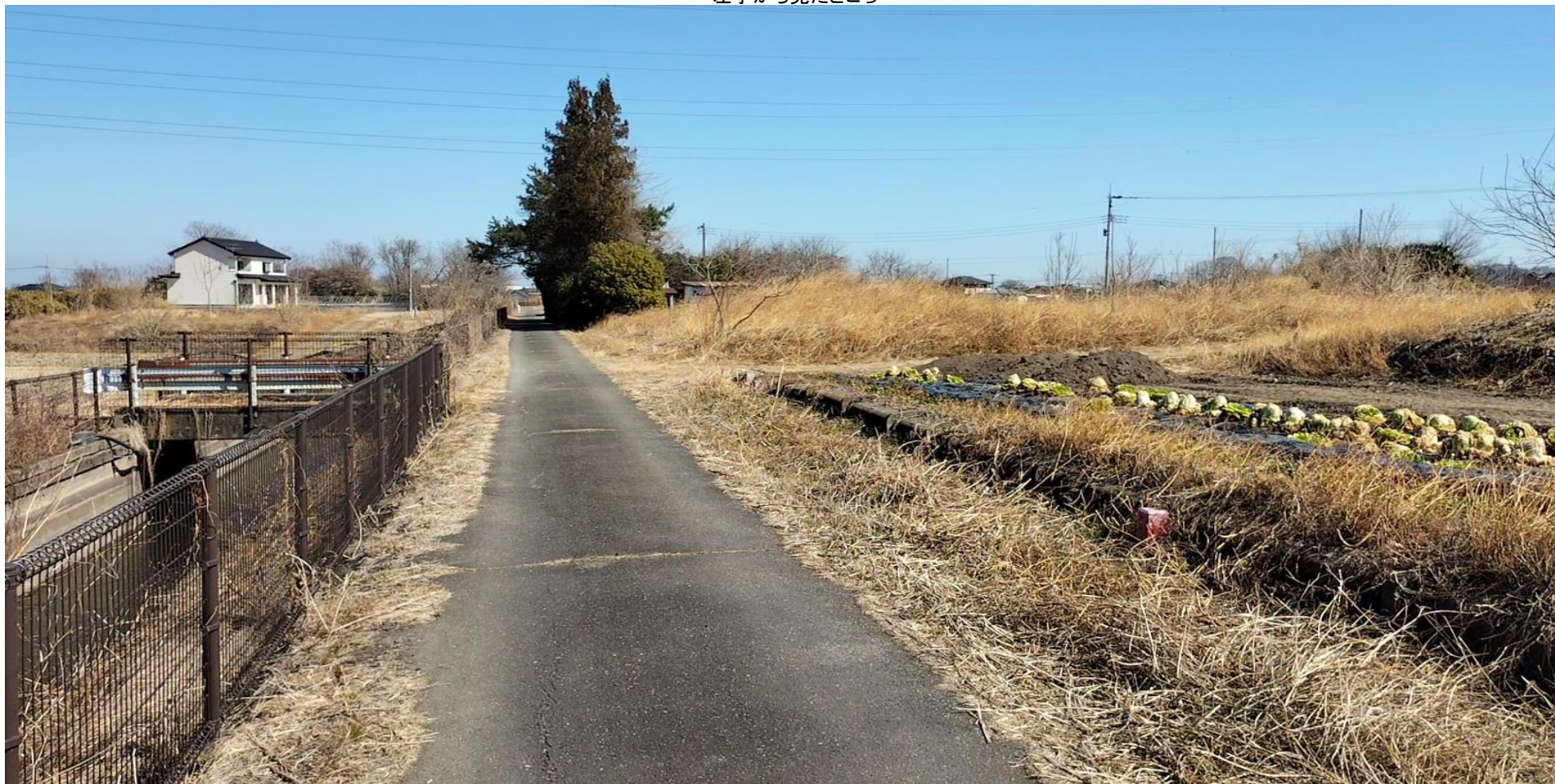
 video



6号墳(192)



左手から見たところ



中央前方左手が13号墳、右手は12号墳



アップで見たところ/左手が13号墳、右手は12号墳



13号墳(181)



左手から見たところ



12号墳(180)



右手から見たところ



さて、ここは神川町多目的交流施設/ここで令和6年度第2回企画展「かみかわの古墳を知ろう(7)海老ヶ久保の古墳」が開催されていた



会場の文化財展示室2



これが海老ヶ久保の古墳についての展示

 video



は じ め に

神川の地に人々がたくさん住むようになったのは今から約1,500年前の古墳時代後期からです。古墳時代の人々の墓として築かれたのが古墳で、町内には約300基あります。

町内の古墳を知っていただくために、「かみかわの古墳を知ろう」というテーマで、令和2年度から企画展を6回開催してきました。

今回は、「かみかわの古墳を知ろう⑦」として、大字池田・新宿地内にある海老ヶ久保の古墳を紹介します。

海老ヶ久保の古墳は、7世紀に数多く造られたこと、古墳が造られる前は、縄文時代から人々が住んでいたことがわかってきました。

この展示が、郷土かみかわの歴史を知る一助となれば幸いです。

1 青柳古墳群

青柳古墳群の由来は、旧青柳村付近に古墳が集中することから名付けられました。神川町には、かつて約 300 基の古墳がありましたが、現在、墳丘が残っている古墳は 80 数基しかありません。

これらの古墳は神流川によって形成された河岸段丘に沿うように、北は四軒在家から南は新宿にかけていくつかのまとまりがありますが、便宜的に北から四軒在家（11）・元阿保（10）・関口（9）・植竹（8）・北塚原（5）・南塚原（6）・二ノ宮（4）・十二ヶ谷戸（3）・海老ヶ久保（2）・城戸野（1）の支群に分けています。また、新里地内の白岩丘陵上には白岩支群（7）があります。群としてのまとまりをよく残しているので、埼玉県重要遺跡に選定されています。

青柳古墳群のほとんどの古墳が、小規模な円墳ですが、大塚稻荷古墳（13）のような大きい円墳や、白岩銚子塚古墳（14）や中新里諏訪山古墳（12）などの前方後円墳も数基あります。これらは古墳時代後期の 6 世紀初めから 7 世紀末までの約 200 年の間に造られました。

2が海老ヶ久保支群、1は城戸野支群、3は十二ヶ谷戸支群



第1図 青柳古墳群位置図

2 海老ヶ久保の遺跡

(1) 地名の由来

海老ヶ久保の古墳のほとんどは、大字池田字海老ヶ久保にあります。「海老」とは、「節があって曲がっているもの」という意味の言葉といわれ、そこから転じて「階段状の地形」を指す地名語です。「久保」は「土地がくぼんで低いところ」を指す地名語です。この付近は神流川によって形成された河岸段丘が2段あり、階段状の地形を呈しています。海老ヶ久保地内は、周辺の土地から、やや低くなっています。これらのことから、階段状の地形で、低くなっている土地という意味で、「海老ヶ久保」という地名が付けられたと思われます。



海老ヶ久保支群航空写真。中央の緑の丸いのが古墳で、台地の上にあります。北側が低地です（平成4年撮影）

(2) 古墳が造られる前の人々の暮らし

①海老ヶ久保遺跡

海老ヶ久保支群の古墳は、大字池田字海老ヶ久保、大字新宿字田通しにあります。この付近は神流川によって形成された河岸段丘が2段あり、海老ヶ久保とその南西にある城戸野支群は下位の、海老ヶ久保支群の南にある十二ヶ谷戸支群は上位の段丘にあります。

海老ヶ久保支群の範囲は東西約570m、南北約320mで、その中に44基の古墳があります。古墳がある段丘の地形は東側に南から北へと流れる小河川があり、その小河川の両側は、ほぼ平坦な地形です。標高は、南と西で約108～108.5m、北で106.7m、東で約106m、段丘崖の高さは約4mです。

古墳が造られた範囲で、縄文時代から古墳時代にかけての遺物が採集されていることから、古墳群の下にそれらの時代の集落跡があると考えられ、海老ヶ久保遺跡と名付けられています。

平成3年と4年に行われた古墳の発掘調査で、縄文時代から古墳時代後期にかけての土坑や竪穴住居跡などの遺構と生活に使っていた土器などが出土しました。

3 海老ヶ久保の古墳

① 概要

支群内を南北に流れる小河川の東側に 5 基、西側に 39 基の計 44 基の古墳が確認されています。発掘調査が行われた古墳が 8 基、墳丘が残っている古墳が 25 基、古墳跡が 11 基です。墳丘の形は円墳ですが、1 号墳は円墳と円墳がつながった形になっています。

発掘調査は、西にある 41 号墳が昭和 58 年に、40 号墳が平成 2 年に、中央にある 10・11・20・21・22 号墳が平成 3 年に、18 号墳が平成 4 年にそれぞれ行われました。調査された古墳は、現在残っていません。

② 海老ヶ久保 10 号墳

【墳丘規模】 径約 15.5m 【墳丘の形】 円墳

【埋葬施設】 入口が南西方向にある胴張りの両袖型横穴式石室

10 号墳は、石室の大半が壊されていきました。玄室（遺体を納める部屋）の推定の長さ 4.2m、幅 1.66m 以上、羨道は残っていません。玄室壁の積み方は「模様積」です。

石室の周囲には「控積み」という石積みがあり、石室入口の前には前庭の石積みがあります。

控積みの周囲には、墳丘を形成する葺石が 2 列巡っていますが、周溝は見つかりませんでした。

遺物として、勾玉・切子玉・耳環、鉄鏃・鉄製刀子などの副葬品、須恵器補強帯大甕、甕・長頸瓶・埴瓶などの土器があります。須恵器補強帯大甕は墳丘の上に置かれていたようです。造られた時期は 7 世紀前半です。



10号墳と11号墳（東より）



10 号墳墳丘表土除去後全景（北西より）



10 号墳石室（南西より）



控積み

葺石

10 号墳墳丘盛土除去後全景（北西より）

③ 海老ヶ久保 11 号墳

【墳丘規模】 径約 11m 【墳丘の形】 円墳

【埋葬施設】 入口が南南西方向にある胴張りの両袖型横穴式石室

11 号墳は、石室の大半が壊されていました。玄室の推定の長さ約 2.8m、最大幅 1.8m、羨道は長さ約 1.8m、幅 67 cm、玄室の壁の積み方は「模様積」です。

前庭は西側の石積みが僅かに残っていました。控積みと葺石の石積みはありません。

周溝は、幅約 2～3m、深さ最大 86 cmで、須恵器・土師器、鉄製鎌が出土しました。この周溝は 3 号住居跡を壊していました。

遺物として、耳環、鉄製刀子などの副葬品、須恵器甕・長頸瓶、土師器片などがあります。造られた時期は 7 世紀中頃です。



11 号墳全景（南西より）



11 号墳石室（東より）

④ 海老ヶ久保 18 号墳

【墳丘規模】 径約 11m 【墳丘の形】 円墳

【埋葬施設】 入口が南南西方向にある胴張りの両袖型横穴式石室

18 号墳は、石室の大半が壊されていました。石室の長さは約 4.6m、玄室の推定の長さ 2.8m、幅約 1.9m、羨道の長さ約 1.8m、幅約 1m、玄室の壁の積み方は「模様積」です。

石室の周囲には「控積み」という石積み、石室入口の前には前庭の石積みが約 1.3m 分残っていました。

控積みの周囲には、墳丘を形成する葺石が 2 列巡っていますが、周溝は見つかりませんでした。

遺物として、玄室から鉄鏃、前庭から土師器坏、墳丘上から多くの須恵器補強帯大甕が出土しています。

須恵器補強帯大甕は色調などから 4 種類、数にして約 10 個が墳丘上に置かれていたことがわかりました。造られた時期は 7 世紀中頃です。



18 号墳墳丘表土除去後全景（西より）



18号墳墳丘盛土除去後全景（南西より）

⑤ 海老ヶ久保 20 号墳

【墳丘規模】径約 21m 【墳丘の形】円墳

【埋葬施設】入口が南南西方向にある胴張りの両袖型横穴式石室

20 号墳は、石室の大半が壊されていました。石室の長さは約 7 m、玄室^{げんしつ}の推定の長さ約 4.2m、最大幅約 2.2 mです。玄室奥壁より南 1.4mのところに、玄室内を区画する仕切石が 3 個置かれていました。玄室壁の積み方は「模様積^{もようづみ}」です。

前庭^{ぜんてい}の南端は外側の葺石^{ふきいし}と接合し、その線上に石が置かれていることから、前庭の長さが約 2.3mであることがわかりました。

石室の周囲には「控積み」という石積みがあります。10・18 号墳の控積みは、古墳を築造した地表面から構築していますが、20 号墳は、墳丘を 24～70 cm盛ってから構築していました。

控積みの周囲には、墳丘を形成する葺石が 2 列巡ります。周溝^{しゅうこう}は、幅約 1.8～2.4m、深さ 30～40 cmありますが、石室入口部にあたる個所には掘り込みがなかったようです。

遺物として、鉄鏃^{てつぞく}・鉄製刀子^{てつす}、前庭から須恵器甕・長頸瓶が出土していますが、須恵器の出土量は多くありません。

奥壁石積みの間から鉄鏃 2 本が刃先を玄室に向けた状態で出土しています。奥壁の構築時に儀礼のために置かれたものと考えられます。造られた時期は 7 世紀前半です。



20 号墳墳丘表土除去後全景（南より）



20 号墳石室（南より）



20 号墳墳丘盛土除去後全景（西より）



20 号墳控積み（西より）

⑥ 海老ヶ久保 21 号墳

21 号墳は20号墳の北東、22号墳の北にある古墳です。墳丘は、調査時に既になく、墳丘を巡っていた西側の周溝の一部が見つかりました。周溝しゅうこうの掘り込みは長さにして約 14m分、深さは 27 cmありましたが、遺物の出土はありませんでした。周溝の形から 21 号墳は円墳で、造られた時期は後期ではないかと考えられます。

⑦ 海老ヶ久保 22 号墳

22 号墳は20号墳の南東、21号墳の南にある古墳です。墳丘は、調査時に既になく、墳丘を巡っていた西側の周溝しゅうみぞが見つかりました。周溝は、上幅 1.9～3.5m、深さは 16～35 cmありましたが、遺物の出土はありませんでした。周溝の形から 22 号墳は円墳で、造られた時期は後期ではないかと考えられます。

⑧ 海老ヶ久保 40 号墳

40 号墳は支群で最も西にある古墳です。埋葬施設は確認できませんが、調査地の南東で上幅約 5.3m、深さ約 90 cmの周溝しゅうこうが見つかりました。40 号墳を円墳とすると周溝外径で 25～30mの比較的大きい古墳になることがわかりました。周溝からの遺物の出土はなかったので、細かい時期はわかりませんが、造られた時期は後期と考えられます。

⑨ 海老ヶ久保 41 号墳

41 号墳は支群の西にある古墳です。埋葬施設や墳丘の半分以上が壊され、東側の墳丘盛土と葺石ふきいし2 列が残っているだけで、周溝は見つかりませんでした。調査の結果、径 14.6mの円墳で、埋葬施設は壊されていましたが、横穴式石室であったと考えられます。

出土遺物の大半が、須恵器大甕の破片で、中でも口縁部と胴部の接合部に補強帯を付ける大甕が多くあります。これらの土器は、古墳を壊している溝から出土しています。造られた時期は7世紀前半と考えられます。



41 号墳葺石（南より）

4 まとめ

- 古墳が造られる前は、縄文時代・弥生時代・古墳時代の住居や墓などがある集落跡でした。
- 古墳の埋葬施設は横穴式石室です。その形は、胴張りの両袖型で、玄室の石の積み方は、模様積です。石室に用いる石材は河原石です。
- 土器を玄室内に副葬することは確認できませんでした。前庭に土器を置くことが確認されています。
- 埴輪の出土はほとんどありません。墳丘上には須恵器が置かれていました。
- 調査された古墳の築造年代は、7世紀前半～中頃です。
- 44基という数の古墳を造った人々の居住地はわかっていません。

神川町遺跡地図より

